

出会い ふれあい 助け合い

サロンあべの

VOL.196



ハーモニカとマンドリン&ギターの調べにのせて・・・

〈サロン・あべの〉9月の出会い

暑さもようやく遠のき、さわやかな晴天となった平成14年9月21日(日)〈サロン・あべの〉9月の出会いは、「ハーモニカとマンドリン&ギターの調べにのせて」のタイトルどおり、音楽満杯のサロンとなりました。この日の出演は、宇根山義弘さんとスイートポテトの二組。

ハーモニカ奏者の宇根山義弘さんは、小学五年生のころからハーモニカが大好きで、ズーと愛用されており、ハーモニカの数も増えていったそうです。この日は7本のハーモニカを持参され、曲に合わせて1本で吹いたり、2本を合わせたりと使い分けておられました。曲は全て暗譜、耳から聴いて覚えられるとのこと。お話の後、ハーモニカのメロディが途切れることなく次から次へと流れました。

まずは、りんご特集から始めました。

- ・りんごのひとり言
- ・りんご村から
- ・りんごの木の下で
- ・りんごの唄

・りんご追分
と、美空ひばりの「りんご追分」から続いて、ひばりのメロディに移りました。

- ・悲しき口笛
- ・越後獅子の唄
- ・ひばりの花売り娘
- ・花笠道中
- ・港町十三番地
- ・悲しい酒

と、ハーモニカのやさしい音色で前奏や間奏もリズムミカルに続きました。そして一転、リコーダーで童謡・・・

- ・赤とんぼ
- ・里の秋
- で、気分が替ったところで、再びハーモニカの軽快なリズムに、
- ・故郷の話をしよう
- ・北国の春
- ・青春サイクリング
- ・高原列車は行く
- ・月がとつても蒼いから
- ・丘を越えて
- ・夢追い酒
- ・港のおりくさん



ハーモニカ演奏の宇根山さん



オリジナル曲「虹」を演奏するスイートポテトの二人

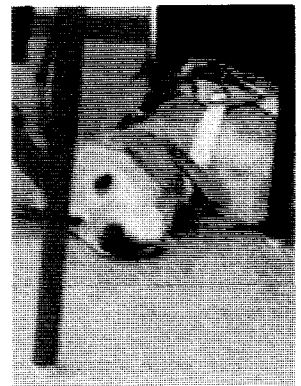
・お座敷小唄
 ・ちゃんちきおけさ
 ・おけさ唄えば
 ・芸者ワルツ

と昔懐かしいメロディを一気に演奏されました。聴く人たちも手拍子を取りながらそれぞれの歌にまつわるあの頃あの時代を思い出されたようでした。

一息入れた後、昨年「スイートポテト」を結成され、活動を始められた佐藤隆雄・里美ご夫妻に演奏していただきました。ご夫妻はフォークが大好きで60年代・70

年代の曲を中心に歌ってきているが、新しい曲も取り入れたいし、オリジナル曲も増やしたい。と熱い意欲を語られました。さすがご夫婦、楽器の演奏とボーカルが阿吽の呼吸でぴたりと合った演奏をしていただきました。隆雄さん自作の「虹」の詞に「私は虹を見たことがない。虹がどんな色をしているのかわからない。あなたという虹をつかむ」と隆雄さんが歌われた時、その愛の深さを感じずにはおられません。楽器は隆雄さんがギター、里美さんがフラットマンドリン。

主なボーカルは里美さんが担当、澄んだよく通るやさしい声。演奏は



机の下でうっとり演奏を聴くエール

・都会ぐらし
 ・水鏡(隆雄さんボーカル)
 ・加茂の流れに(デュエット)
 ・風を感じた
 ・ふたつの手の思い出
 ・虹(作詞・作曲||隆雄)
 ・シクラメンのかほり
 ・今日の日はさようなら

と、続きました。最後のこの曲は里美さんのリードで、参加者一同の大合唱になりました。そして、アンコールの「翼をください」でも、またまた感激の合唱となりました。歌は国境を越えると言いますが、年代も性別も障害も越えて一つになれた(サロン・あべの) 9月の出会いでした。

参加者21名(富田慶子)

誰でも参加できる場所へ

第5回

アメリカ合衆国コミュニティ ガーデン協会について

林 典生

前回からニューヨーク、サンフランシスコの事例を紹介いたしました。今回はフィラデルフィアに本部があるアメリカ合衆国コミュニティガーデン協会 (ACGA) について紹介いたします。

ACGA はアメリカ合衆国のコミュニティ緑化活動をネットワーク化し、社会資源の開発を行うとともに、全国規模の実態調査を行う。その結果を元に教育プログラムを開発・指導を行うことを通じて推進している団体であります。

なぜフィラデルフィアにこの協会の本部

があるかを答えることが、アメリカのコミュニティガーデンの活動史につながってきます。つまり、ACGAの歴史をも紐解くこととなります。

1974年にフィラデルフィアにペンシルベニア園芸協会が設立されて、1978年に都市緑化プログラムであるフィラデルフィアグリーンが行われるようになった。

そのプログラムのきっかけとなったのは比較的低所得者のコミュニティを対象に、菜園プログラムを通じた地域緑化活動であった。その活動が認められ、フィラデルフィア地域開発の助成金を受けることができ、正式にプログラムが発足したのである。

発足後、住民グループが花や野菜づくりを楽しめ、家々のウインドーボックスや街路樹、公園などへの植物の植え込みに参加できるようなプログラムを作成するために、材料提供、技術相談、園芸教育を行いながら、住民グループを組織化していった。

また、グループを支援するために市当局や土地信託会社等に基金の協力を呼びかけるとともに、オープンスペース活性化計画を推進して、放置遊休空地の再利用や管理

運営の調査研究を行っている。

FHSはこれらの活動の成功で得られた資金をもとに国内外に運動を推進するためにACGAを1979年に設立し、現在でも実質的な活動母体になっている。

開発された具体的なプログラムとして領域別に3種類あり、それぞれ各地で現在、積極的に行われています。

まず、生活圏にある緑化や公園活性化などを目指して、コミュニティやボランティアなどの「個人」が中心とした活動であるコミュニティグリーンニングがあります。

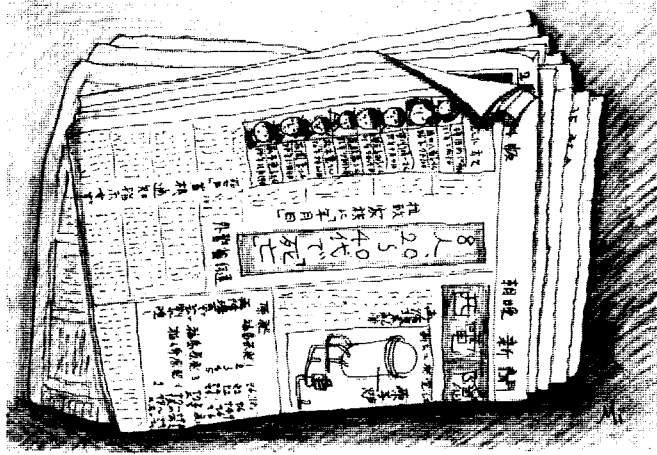
次に、少し大きな公園などの公共景観分野において民間企業と関連行政及びコミュニティがつくりだすパートナーシップ事業であるパブリックランドスケープがある。

最後に、あらゆる階層や人種が住むコミュニティに対して緑化管理リーダーの養成や資材・技術提供を通じてみどりのまちづくりに取り組む社会奉仕活動分野の緑化プロジェクトであるアウトリーチがある。

今回はアメリカ合衆国のコミュニティガーデン活動を支えるシステムについて紹介しますので、お楽しみにしてください。

★平和を祈る

最近の私は、かの国による拉致問題で頭がいっぱいで、拉致について報道している番組を探し、録画予約して、夜中にそれを見るところ毎日を繰り返している。日常的な仕事にも支障が出てくるほ



どなのに、それを続けている。

それというのにも私には、このようなことが起きていたということ自体が衝撃的だったのである。連日、報道されている日本人たちが拉致されたところ、私は大学生だった。私は周りの平均的な学生よりは政治に興味をもち、世界情勢にも強い関心をもっていたという漠とした思いがある。にもかかわらず、私にはこのような他国による犯罪が日本で行われていようとは全く考えもしなかった。

つまり、私は何も知ってはいなかった。にもかかわらず、ある程度、わかっているような気になって、学生時代、国防政策についてあれこれと公言したこともある。それは拉致された人びとや、その家族がそれを聞けば、きつと憤慨するような、無知に基づく意見にすぎなかった。

第二次世界大戦後にさまざまな情報をつきつけられ、戦時中に自分もついで

た物の考え方や価値観が覆(くつがえ)された経験をもつ人は多かったと思う。その程度ははるかに小さいとはいえ、私も現在、同様の体験をしている。私は、あまりにも外国政府との関係に楽観的な印象をもっていた。そのため、この冷酷な現実にも凍るようなのだ。

あの世界大戦中は、多くの人たちが事実とは異なることを信じ、その信念のもとに、やがては無数の人々の命を奪う主張がなされていた。戦争が終わると、その主張は打ち消されたが、その間違った自分の言葉を忘れたかのように別のことを言い始めた。その言論の責任を問われることは少なかったと思う。

その規模や内容の違いこそあれ、こんどの問題にも私は同じことを感じた。「拉致など、あの国がするはずはない」とか、「国家がそのようなことをして何の

お知らせ

<サロン・あべの> 11月の出会い

日時…11月16日(土) 午後1時～4時
 場所…育徳コミュニティセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
 TEL 06-6621-1901
 最寄り駅=

- ・地下鉄御堂筋線「西田辺」
- ・赤バス「育徳会館」

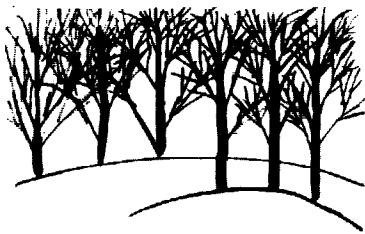
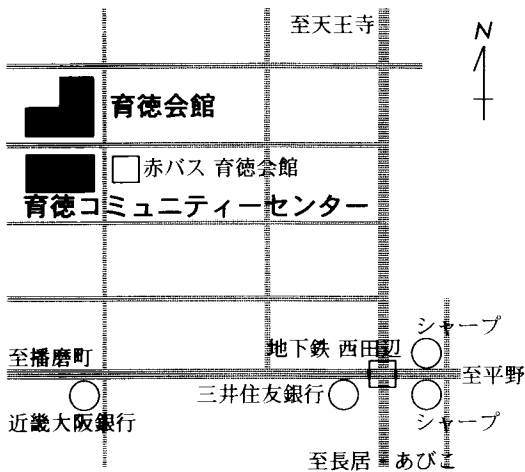
内容…生命あふれる樹々の話

演奏者…松村順子氏

会費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



<サロン・あべの> 12月の出会い

日時…12月7日(土) お昼

内容…昼食会(会費・場所は未定)

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)

得になると思うのか」などと、それを否定する発言がなされ、被害者の家族には根拠のない非難もあびせられたという。ところが、それを指導者が認めたとなると一転して「私は知らなかった」と言うだけで済ましている。やりきれないのは、そういう人たちが、あの国の事情に通じた人として再び新聞などで意見を述べ、過去の自分の発言の過ちについては何ら詫びていないことである。このよう

な人たちの言葉を被害者の家族たちほどのように聞いているのだろうか。もちろん、私はあの地域の政治情勢について詳しくはない。しかし被害者が隔離され、悲惨な生活を強いられていたころ、私は、日本は平和を謳歌していると思っていた。そして何もせず現状を維持することが平和を守ることだと信じ、いろいろな政治の動きに反対もしていた。私には大きな発言力はなかったが、それ

でも声をあげていたことは事実だった。私は戦時中、戦争を賛美した人を非難していたが、私自身は戦争のない時期に、実際には傷つけられていた平和を信じ、苦しんでいた人たちに目を向けることはなかった。私自身の間違いは何だったのか。どうして見るべきことを見ようとしなかったのか。拉致報道を見ながら、私はこれまでの自分の考え方も見直している。

(知)

桃栗3年、
柿8年、
サロン・あべのは
2000号



・・・ということ、みなさまから寄せられた
いろいろなお話に添えて、サロン紙にまつわるあ
んな事、こんな話も、ごいっしょに。

ここだけの話

サロン淀川 窪田新一

けてきて良かったと感じたことがたくさ
んある中で、一つだけお教えいたしまし
よう。

「ちよつと奥さん聞いた？ ここだけの
話よ、じつは隣の奥さん最近ね・・・」
ここだけの話って誰もが興味あるのでは
ないでしょうか。そこで「サロン淀川」の
ここだけの話を紹介します。

「ちよつと奥さん、サロン淀川の窪田さ
ん、会社を辞めはったの知ってはった？」

そうなんです。私、35年余り勤めていた
会社を流行のリストラになり4年間フリ
ーターでした。この間もサロン活動を続

同時期にサロン活動を始められた「ウ
イズ東淀川」の鈴木さんとの出会いは衝
撃的でした。鈴木さんは若い時にベーチ
エツト病を発病され全盲になり、苦しみ
辛い時期を乗り越えられ、現在はもう明
るいというだけの、おっちゃんです。失職
の中、鈴木さんの辛い時期のお話を聞い
たことを思い出すと、私のリストラなん
てたいしたことではないと思い、鈴木さ
んよりも明るくなるのが大切と考え、
そのように努めてきました。今は頭の髪
も少なくなり明るくなり過ぎるのではと
いうご意見もあるのですが・・・。

「ちよつと奥さん、サロン淀川の窪田さ
ん、今は仕事してはるみたいやで」
そうなんです、以前勤務していました



●200号 あんな事、こんな話——役得

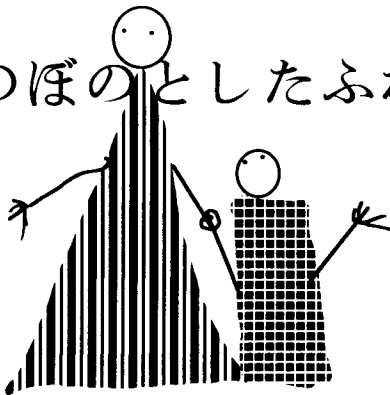
サロン紙の発行は毎月第3土曜日と決まって、はや196号になります。セルフ社からは発行日当日の午前中か早ければ2、3日前に二つの小さいな梱包で届きます。誰もが何か届くと開けるまでの時間がもどかしいと思われると思いますが、その梱包も中に何があるか解っていないながら開封が待たれます。そして600部のサロン紙をでんと目の前に積まれると、武者ぶるいのような胸の高鳴りを感じます。表紙に写真があるかイラストがあるかで、サロン紙の雰囲気もがらりと変わります。編集者の苦心の後が感じられる時です。その真新しい一頁からルビをふりながら読み進めていく喜びは、発送を担当していればこそと思っています。

「毎月のサロン紙、よく原稿が続くね」と多くの読者から言われますが、本当に原稿を寄せてくださる方々には感謝の一言です。1カ月はすぐに経ちますが、仕事や他のご用もおありと思いますのに、途切れることなくお送りいただいています。「その秘訣は?」と聞かれても何の苦勞もしていない自分に照れるだけです。「恵まれているんだなあ、サロン紙は・・・」とさせていただきながらの196冊目。いろいろなお誉めの言葉を聞かせていただきながらの月日は、私にとってありがたく嬉しい日々となっています。

ルビを付け終わったサロン紙は、音訳ボランティアグループの「糸でんわ」さんにお渡ししてテープ作成をお願いします。(け)

就業日と同じ土、日、祝祭日の休みの職種を探し何とか再就職でき、サロン活動・ボランティア活動に専念できる喜びで今は楽しい日々を送っています。 「サロン淀川」は今年で9年目になりまして。多くの方たちに助けられ今日まで続けられた事に感謝しています。

ほのぼのとしたふれあい、いかがです。



これは便利。
一筆箋
1冊100枚綴 ¥150-

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力ください。

植物あれこれ 第四十五回

山口康二郎

コスモス (和名)秋桜 (別名)大春車菊

講師に行っている園芸専門学校の生徒に「秋の草花で好きなものは何か」と問うてみると、コスモスが第一位、続いて、キキョウ、なんとキクと答えたのは一人でした。これほどコスモスが好かれているのは何故でしょう。

コスモスはギリシャ語で「飾り」「美しい」という意味だといわれています。和名の秋桜は誰がつけたのか不勉強で知りません。言い得て妙だと感心しています。おそらく花卉の形が桜の花びらに似ているところからの命名だと思われるます。日本人の好みに合う花として全国に普及したのでしょうか。原産地はというと、メキシコで、元々は短日性植物で夏至以後にしか咲かないものですが、改

良され、今では植え付けすると五〇〜六〇日で咲く長日種もあります。

コスモスは大きく分けて二つに分類されます。一つは、いわゆるコスモスの種類で「ピピンナタス」。もう一方はキバナコスモス「サリアリヤス」です。面白いことに、この両方の種類に黄色い花があります。さらにこの両方の黄色を作り出したのはどちらも日本の人なのです。

一般的なコスモスの花びらは八枚ですが、中には九枚あるものがあり、四つ葉のクローバー探しのようになり、たくさんの中からも九枚の花びらを探してみるのも楽しいものです。園芸種としては、二色咲きのもので半八重咲きのもので、花弁が筒状になったものなど、色も形もさまざまなものがあります。栽培も容易で、休耕田や空き地に種を蒔いておくと、毎

年こぼれ種で育って秋に楽しむことができます。

近郊にもコスモス園があちこちあります。九枚の花びらを見つけに、ご家族お揃いで出かけてみられたらいかがでしょうか。



美智子のこんな話

岸田美智子

不思議な出会い!?

私は平日のほとんどは職場である「自立生活センターくまいどろ」に出勤しています。休日は買い物や遊びで、毎日外出していません。そんなある日、最寄りのJR阪和線・長居駅のホームで、ある人から「はい、これあげる。もし売ったら8万円ぐらいで売れるよ」と、言つて、私の似顔絵を描いたはがき大のスケッチを渡されました。見ると、そこには金髪で白いスーツを着て、胸には薄紫のハンカチーフを飾っている、一見あぶなそうな?男性が立っていました。

た。この男性は横で、チラチラ私を見ながら2〜3分で、この絵を描いてしまったようです。私の介助者は、私より先に気が付いていたようで、不思議な人だと思っていたそうです。私は啞然とし、すぐに「うそだ!」と思つたし、知らない間にモデルにされているつて、どういう事? 肖像権は? . . . などと、考えてしまいました。電車に乗り込み、少し話せる時間があつたので、

「何故、描いてくれたのですか?」

と、聞くと、

「真つ赤なTシャツが印象的だったし、

良かったから」

と、言われました。

そして、

「もし時間があれば観に来てください」

と、カラーの個展の案内状を渡されました。

この時は時間がなかつたので、この絵をじっくり観ずに、別れた私でしたが、自宅に帰り、ゆっくりこの絵を観ると、とても2〜3分で描けるような絵ではなく、「いったい何者だ」と興味湧いてきました。

そんな私は、休みの日にこの個展を観に行きました。この個展会場は、天王寺の有名な一心寺の向かいにある「coco oro」というきれいな喫茶店でした。この喫茶店のオーナーに先日の出会いの事を話すと、

「あ、徳善先生は、どこでも、いつでも、気に入ったものがあると、描いてしまう癖があつて、人を驚かせてしまうのですよ。絵描きの間では、「タヒチの絵の徳善」と言えば、有名ですよ。はがき大の大きさで8万円が相場ですよ。もうすぐ先生がお見えになります、喜ばれるから待つてあげて. . .」

と、言われました。

この喫茶店には、他にも、いろいろな絵が飾られていて、絵筆のタッチは、とても優しく、癒し系の絵でした。それにしても、8万円なんて、私の1カ月分の生活費に近いなあと実感しました。その日は、この徳善先生と、お会いすることが出来、いろいろ話が出来ました。なんと、この先生の自宅もご近所で、もう20年以上絵を描いておられ、若い時は、ボランティア活動もされていたそうです。

そして、この日は、私も介助者も、徳善先生にコーヒーまでご馳走になりました。

ほんとは「異なもの味なもの」でした。

○自立生活センター

MYD O's まいどろ(岸田)

大阪市住吉区长居西一十九一十二

TEL ○六一六六〇九一三二二三

FAX ○六一六六〇九一三二一〇

E-mail=cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

感謝

カンパ・切手・お茶・ジュース・お菓子などのご寄贈、サロングッズの買い上げなど、ありがとうございました。

石原 栄(大阪義肢装具センター)

大谷美津子、岡賀寿子、小嶺佐菜子、

近藤千枝子、阪田富子、高尾澄男、

竹村定子、田辺サカエ、田村澄子、

田村昌子、富田万里子、中嶋良子、

東百合子、表谷恵美子、松村順子、

村田能子、八木千代子、その他の方々、

「相田みつを」展を観て

先日、大丸デパートへ「相田

みつを」展を観に行った。

相田みつを氏は亡くなられ

てすでに十年になるが「書の

詩人」と言われていただけに、

たくさんの詩や書の作品を遺

しておられる。今回は詩や書

の他にろうけつ染(屏風や風

景)などを加えて、創作活動初

期から晩年までの作品およそ

八十点が展示されていた。

順路に従って一つ一つの作

品を観て回ったが、どれも光

り輝いており、観る者の心を

素直にさせてくれた。そんな

中でも次の詩を観ていろいろ

教えられ、私は目頭の熱くな

るのを覚えたのである。

稲垣 恵雄

④9

晴れのち晴れ

アノネ

アノネ

親は子供を

みているつもりだけれど

子供は

その親を

みているんだな

親よりもきれいな

よきれない眼でね

私は「親よりもきれいな、よ

きれない眼でね」を観てハッ

とした。誰でも大人になれば

眼も心も汚れていくのかも知

れないが、童話を作っている

私にとってせめて創作してい

る時だけでも子供のような澄

みきった眼と心をもちたいと

思った。



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」11月の出会い

日時: 11月17日(日) 午後1時30分~4時

場所: 淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内容: ビデオ「千と千尋の神隠し」を観る
~トンネルの向こうは不思議な世界でした。
宮崎駿の世界を満喫します~

会費: なし

問い合わせ先: 淀川区社協 (ボランティア・ビューロー)

☎ 06-6394-2900

E-mail: scraji@risecnet.ne.jp

■「サロン・ひらの」11月の出会い

日時: 11月10日(日)

集合時間: 午前9時30分

集合場所: 近鉄上本町1階外口

内容: 奈良公園へ行きますよ

参加費: なし (各自の昼食・交通費など実費負担)

* 障害者手帳のある人は持ってきてください

申し込み締め切り: 11月2日

問い合わせ先: 平野区ボランティア・ビューロー

大西 ☎ 06-6795-2200

■「サロン・にし」11月の出会い

日時: 11月9日(土) 午後1時30分~4時

場所: 西区ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14 6階 (西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内容: みんなで折り紙を楽しもう!

会費: なし

問い合わせ先: 関口 ☎ 090-4281-5641

■「サロン・にしよど」11月の出会い

日時: 11月23日(土)

集合時間: 午前9時

集合場所: JR 東西線鶴岡駅改札口前

内容: 昆陽池へ行こう!

会費: なし (各自交通費負担・弁当持参)

問い合わせ先: 西淀川区在宅サービスセンター

緒方 ☎ 06-6478-2941

■「ウイズ東淀川」11月の出会い

日時: 11月10日(日) 午後1時30分~4時

場所: 東淀川区在宅サービスセンター「ほほえみ」

大阪市東淀川区省原4-4-37 ☎ 06-6370-1630

内容: 食欲の秋、中秋の名月のようなまん丸な「たこ焼き」
をみんなで焼きましょう!

自分で焼いた「たこ焼き」は自分で食べましょう!

講師: たこ焼き職人 宮本志津代氏

会費: なし

問い合わせ先: 鈴木昭二 ☎ 06-6340-3082

FAX 06-6340-3012

■「小さな友の会」10月ころの集い

日時: 10月26日(土) 午後6時30分~8時45分

場所: 岸和田市立福祉総合センター

岸和田市豊野町1-5-5

☎ 0724-38-2321

南海本線岸和田駅下車徒歩3分

内容: いのちの連帯と豊かな森の再生を求めて
~クマもひと安心して棲める日本に~

ゲスト: 瀬戸悠子さん (日本熊森協会)

参加費: なし (ただし、カンパのご協力を)

問い合わせ先: 阪井健二 ☎ 070-5666-9980

E-mail: tiisanatomonokai@di.pdx.ne.jp

■「サロン・たみ」11月の出会い

日時: 11月16日(土) 午後2時~

場所: 伸幸苑 伊丹市寺本町6-150

内容: 絵手紙を作ろう

会費: なし

問い合わせ先: 磯藤 ☎ 0727-84-0057 (午後7時以降)

声で読書のお手伝い

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙第195号の録音テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) (サロン・あべの)紙は、第1号より第195号までそろっています。
- (b) (サロン・あべの)十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「(サロン・あべの)平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)

- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ほけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田 (☎06・6691・1028) まで。

編集後記
FROM EDITOR

「お元気でいらっしゃいますか。今夜はお月見。晴れてよく見えるといいですね。まん丸いお月さんを見てみると、こちらの心まで丸くなるような気がします。この前、お送り頂いた「たまごが ポン！」のテープを時々、聞いています。いつ聞いてもいいですね。ほんわかしていて…。夏のお疲れ出ませんように。敬具」稲垣恵雄さんからのお便りです。(石)

<サロン・あべの>Vol.196 発行：平成14(2002)年10月19日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：井上憲一・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方 <サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社〒546-0044大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2階TEL06-6719-8212

一九九一年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)